

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科等名	総合的な探究の時間
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ～総合的な学習の時間の取組を基盤とし、質の高い探究を通して資質・能力を育成する「総合的な探究の時間」の実現に向けた指導計画や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習評価のあり方に関する研究～				
ふりがな 学校名 (生徒数)	くまもとけんりつやつしろうこうがっこう 熊本県立八代高等学校 (718人)				
所在地 (電話番号)	熊本県八代市永碓町 856 (電話 0965-33-4138)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://yatsushirohighschool.com/hs/				
研究のキーワード	①地域、②SDGs, ③当事者意識, ④組織的指導体制, ⑤学習評価方法				
研究結果のポイント	○生徒たちは物事を多面的・多角的に見ることの重要性に気づき、視野を広げることができた。 ○地域との協働を通して、生徒たちは自らの探究活動の価値を認識し、学習への意欲を高めた。 また、地域の方々からの激励や期待が、生徒の自己肯定感を高めることにつながった。 ○オンラインを活用した外部講師の指導を通して、生徒は探究内容をブラッシュアップすることができ、教師は探究の授業に対する意欲や指導力を高めることができた。 ○指導と評価の年間計画を作成することができた。 ○年間を通じた資質・能力の具体的な評価方法を開発することができた。 ○実践を評価する具体的な資料を多数作ることができた。				

1 研究主題等

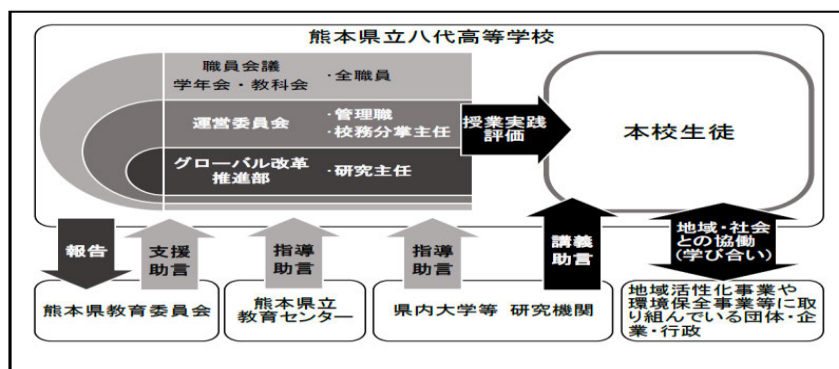
(1) 研究主題

地域と連携した探究活動によってグローバル人材・グローバル人材を育成するカリキュラムの構築～SDGsの達成を目指した地域活動と課題研究を実現させる指導と評価のあり方について～

(2) 研究主題設定の理由

本校ではグローバルな課題や地域の課題の解決に向け活動されている方々の協力を得ながら「総合的な学習（探究）の時間」において課題研究や地域活動に取り組んできた。しかし、この学習活動は学年毎の取組になっており、教科を超えた学校全体を組織しての取組にはなっていない。また、内容の系統性、教科等横断的な取組や指導の方法、評価の方法が確立しておらず、カリキュラムとして未熟である。この課題を解決するために、学習の系統性を担保し、組織的な指導体制の構築を図り、指導と評価の方法を充実させる必要がある。また、本校が所在する八代の地域性を考えると、グローバル人材の育成に加えて、グローバルな視点をもって地域の発展に貢献するグローバル人材の育成も推進していく必要がある。以上のような問題意識から研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○職員アンケートの実施・分析, 全体計画作成 ○SDGsに関する職員研修〔講師招聘〕 ○県内大学との連携 ○地域の団体・企業・行政との連携 ○取組の分析, 全職員による研究経過の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々と高校生との意見交流会 ○先進校の視察 ○令和2年度研究指定校事業研究協議会における中間発表 ○ポスターセッション(報告会)の実施
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画の作成 ○総合的な探究の時間の充実に関する職員研修〔オンラインでの講師招聘〕 ○県内大学との連携 ○地域の団体・企業・行政との連携 ○総合的な探究の時間の学習評価に関する職員研修〔オンラインでの講師招聘〕 ○取組の分析 ○地域の方々と高校生との意見交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ○資質・能力の評価方法の開発 ○先進校の視察 ○職員アンケートの実施・分析 ○生徒アンケートの実施・分析 ○令和3年度(2021年度)国立教育政策研究所高等学校教育課程研究指定校事業研究協議会に係る報告会 ○地域連携支援委員会への参加 ○ポスターセッション(報告会)の実施

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 課題への気づきと課題に対する当事者意識の喚起を促すカリキュラム(1年次)の開発
 - (ア) SDGsに関する情報収集とその活用
 - (イ) SDGsに対する当事者意識を喚起する課題探究と地域活動プログラムの開発と実施
 - (ウ) 地域活性化事業や環境保全事業等に取り組んでいる地域の団体, 企業及び行政との連携
- イ 課題探究活動を深化させるカリキュラム(2年次)の開発
 - (ア) SDGsに対する当事者意識を強化する課題探究と地域活動プログラムの開発と実施
 - (イ) 地域活性化事業や環境保全事業等に取り組んでいる地域の団体, 企業及び行政との連携
- ウ 組織的指導体制の構築と評価システムの確立
 - (ア) 校内の組織的指導体制の構築
 - (イ) 本校の探究活動によって育成する資質・能力の評価方法の開発

(2) 具体的な研究活動

- ア 課題への気づきと課題に対する当事者意識の喚起を促すカリキュラム(1年次)の開発
 - (ア) SDGsに関する情報収集とその活用
 - 書籍, 新聞, 広報誌等の資料や動画, 地域の意見等, 様々な媒体からSDGsに関する情報を収集し, 職員研修や授業に活用した。
 - SDGsの考え方を体験として学ぶために, 講師を招聘してワークショップ形式の職員研

修を実施した。

- (イ) SDG s に対する当事者意識を喚起する課題探究と地域活動プログラムの開発と実施
 - 単元は、新しいものの見方を知ることを目指す「SDG s を学ぶ」、新しいものの見方を活用することを目指す「SDG s で課題発見」、SDG s を意識して地域と協働しながら取り組む課題研究「コース別プロジェクト」の三つで構成した。様々な媒体を活用すること、地域資源の活用を模索すること、「考えるための技法」を意識することに留意した。
- (ウ) 地域活性化事業や環境保全事業等に取り組んでいる地域の団体、企業及び行政との連携
 - 令和2年6月に、研究主任が計画書を持参して地域の団体、企業及び行政の担当者を訪問し、協力を依頼した。積極的な協力や提案が多数あり、高校生の活動が地域から強く求められていることを実感する機会となった。
 - 地域の方々の協力により、12 コースに分かれて取り組んだ課題研究の中で、フィールドワークや実験、考案商品の試作等の活動を実施することができた。
 - 地域の協力者を招き、選択講座「課題発見ライブラリー」や課題研究の中間報告会「地域の方々と高校生との意見交流会」を開催した。
 - 課題研究の報告会として、ポスターセッションを行った。コロナ禍の対応で生徒同士のみの報告会とし、外部からは大学の先生にオンラインで参加していただいた。

イ 課題探究活動を深化させるカリキュラム（2年次）の開発

- (ア) SDG s に対する当事者意識を強化する課題探究と地域活動プログラムの開発と実施
 - 単元は、新しいものの見方を活用することを目指す「SDG s で課題発見Ⅱ」、SDG s を意識して地域と協働しながら取り組む課題研究「課題研究プロジェクト」の二つで構成した。1年次に引き続き、様々な媒体を活用すること、地域資源を活用すること、「考えるための技法」を意識することに留意した。
 - 新聞や新書を活用した授業や教員との相談会を実施し、探究に堪えうる「問い」を考えた。
 - 「課題研究プロジェクト」では、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のプロセスを意識しながら活動に取り組みさせた。
- (イ) 地域活性化事業や環境保全事業等に取り組んでいる地域の団体、企業及び行政との連携
 - 令和3年5月に、研究主任が計画書を持参して地域の団体、企業及び行政の担当者を訪問し、新規・継続の協力を依頼した。前年度と同様、積極的な協力や提案が多数あった。
 - 地域の方々の協力を得ながら、11 コースに分かれて取り組んだ課題研究プロジェクトの中で、インタビューやアンケート、フィールドワークや実験等を実施することができた。
 - 大学研究室や医療機関とオンラインを介した授業を多数実施したことで、対面にこだわらない地域との連携の在り方を開発できた。

ウ 組織的指導体制の構築と評価システムの確立

- (ア) 校内の組織的指導体制の構築
 - 先進校視察を通して、学校改革の経緯と体制、改革の理念の共有と課題について、情報を得ることができた。
 - 令和3年6月と10月の2回にわたり、オンライン職員研修を実施した。国立教育政策研究所の調査官を講師としてお招きし、探究を充実させることの意義について、また本校の探究活動へのアドバイス等をお話いただいたことで、教員の意欲を高めることができた。
- (イ) 本校の探究活動によって育成する資質・能力の評価方法の開発

- 先進校視察を通して、育成する資質・能力の具体化の必要性とその手順について、情報を得ることができた。
- 「総合的な探究の時間」の目標と、その目標に即した授業計画、育成したい資質・能力、評価規準、評価方法を盛り込んだ、指導と評価の年間計画を作成した。
- 本校の探究活動で育成したい資質・能力を文章化し、生徒が自身の成長を視覚的に確認することのできるルーブリック評価表を作成した。また、ルーブリックによる生徒の自己評価と教師による評価をもとに、1年間の活動について振り返る面談を計画した。面談の中で、1年間で身に付いた力を評価の3つの観点に沿って具体的に確認し、それらを年間の学習評価に反映させた。
- 各授業で育成したい資質・能力を明確化し、その観点を授業内で自己評価できるような評価欄を、ワークシート内に設けた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- SDGsの視点で物事を分析する学習を通して、生徒たちは物事を多面的・多角的に見ることの重要性に気づき、視野を広げることができた。
- 地域の方々との協働を通して、生徒たちは自らの探究活動の価値を認識し、学習への意欲を高めた。地域の方々からは、具体的な助言や激励、研究の継続と深化への期待が寄せられ、生徒の自己肯定感を高めることにつながった。
- オンラインを活用した外部講師の指導を通して、生徒は自らの探究の内容をブラッシュアップすることができた。またオンラインの職員研修も実施したことで、教員一人一人の探究の授業に対する意欲が高まり、生徒に対する指導力も高めることができた。
- 「総合的な探究の時間」の目標と、その目標に即した授業計画、育成したい資質・能力、評価規準、評価方法を盛り込んだ、指導と評価の年間計画を作成することができた。年間の計画、毎回の授業の方向性が定まったことによって、一貫性のある指導ができるようになった。
- 年間を通した資質・能力の評価方法を開発し、授業の中で実践できた。
- 生徒が自身の成長を「見える化」できるルーブリック評価表や、学習の成果を自己評価できるワークシート等、実践を評価する具体的な資料を多数作ることができた。
- 探究課題の設定において、生徒、教員とも知識不足で、適切かつ十分な支援をすることに課題が残った。
- 時間数の不足やコロナ禍の影響で、フィールドワーク等の生徒の活動が十分にできなかった。
- 地域の団体・企業・行政との連携が不十分であり、その継続性にも不安がある。

4 今後の取組

ア 課題設定への支援の充実

(ア) 生徒、教員が地域の課題について知る機会の充実

(イ) 生徒の課題設定を効果的に支援する方法に関する職員研修の実施

イ 生徒や学校の状況に応じて発展的に変革する持続可能な指導体制の構築

(ア) 1, 2年次のカリキュラムの見直しと3年次のカリキュラムの開発

(イ) 地域の団体・組織、人材バンク等を活用した連携作り

ウ 教科等横断的な学習の推進

(ア) 「総合的な探究の時間」を基軸とした単元配列表の作成

(イ) 「考えるための技法」を活用した学習の推進